

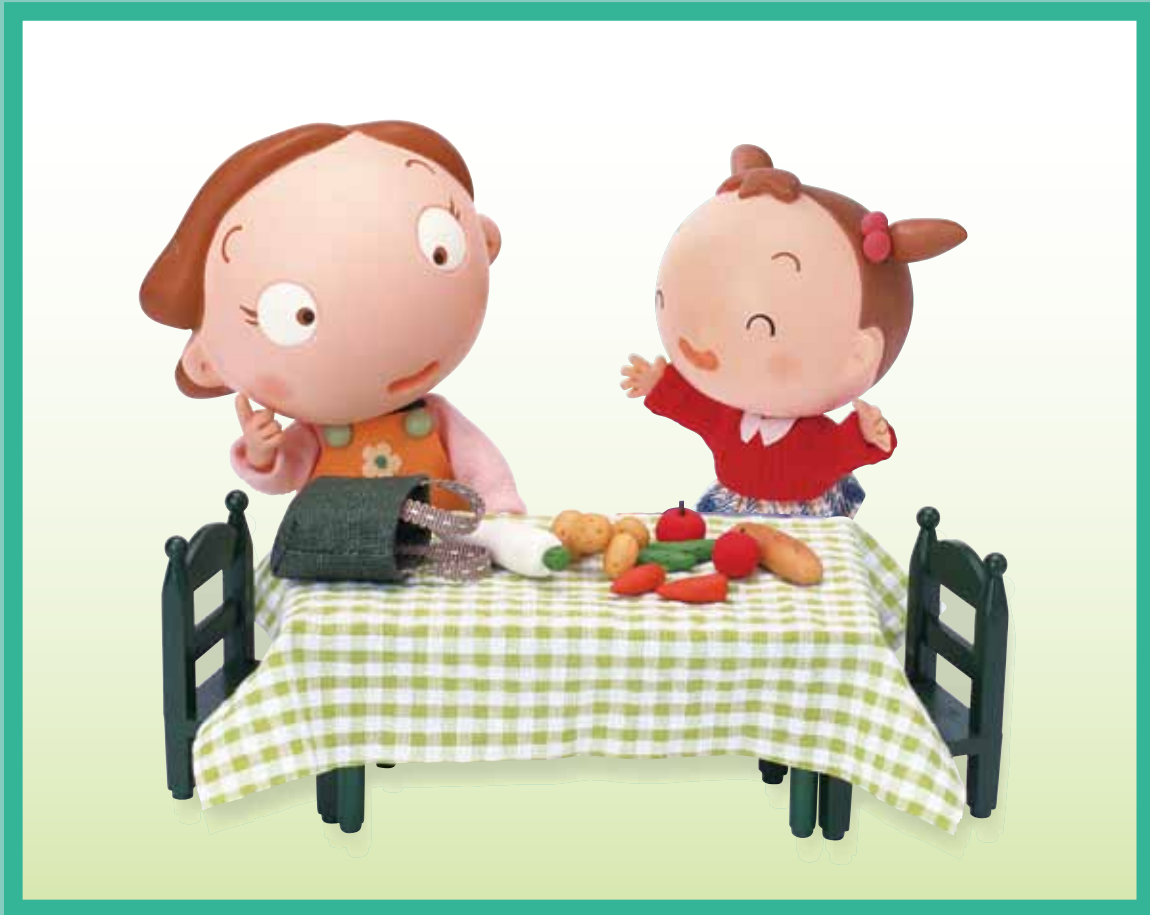
交通遺児育英事業会報

勇気と挑戦、友情と自立をめざして

フレンドリー通信

59号

2019-9



フレンドリー通信 第59号

1 …… 表紙

2 …… 目次

3 …… 巻頭言 交通事故のない北海道を目指して

北海道環境生活部 暮らし安全局長 柴田 千尋 様

交通安全運動の重点

市町村別交通事故死ゼロ状況(令和元年8月31日現在)

過去における交通事故死ゼロ5,000日以上の記録(令和元年8月31日現在)

4 …… フレンドリーひろば

校長先生 「一歩一歩を大切に」

北海道大麻高等学校長 根上 和也 様

篤志家 「未来へつなぐ交通安全」

当麻町交通安全母の会連合会 会長 大谷 春美 様

5 …… フレンドリーひろば

奨学生 「将来の夢」

庄司 愛葉 様

平成30年 全国交通死亡事故状況(平成30年1月1日～12月31日)

令和元年 秋の全国交通安全運動

6 …… お知らせ

善意を寄せていただいた方々のご紹介

寄付金・募金・箱募金・羽根募金をいただいた個人名、団体名を掲載しています

7 …… 奨学金返還完了状況

奨学生募集のお知らせ

8 …… 裏表紙

巻 頭 言

交通事故のない北海道を目指して

北海道環境生活部
くらし安全局長 柴田 千尋



公益社団法人北海道交通安全推進委員会の交通遺児奨学金制度が、広く道民の皆様の善意による資金を基にして、多くの交通事故被害者のお子様支援を行っていただけることに敬意を表します。

さて、昨年の道内の交通事故死者数は141人となり、交通事故統計の記録がある昭和22年以降、前年に引き続き最少を更新し、今年の上半期も、前年を下回るペースとなっています。

しかし、全国的に大勢の子供が被害者となる事故や高齢運転者による死亡事故が相次いで発生するなど、依然多くの方が交通事故の犠牲となっていることは、本当に残念でなりません。

特に飲酒運転による交通事故は、3年連続で死者数11人と未だ後を絶たない状況にあり、「飲酒運転をしない、させない、許さない」を合い言葉に飲酒運転の根絶に向けて取組を強化していく必要があります。

近年、飲酒運転や悪質な交通事故に対する厳罰化や、中央分離帯の設置など道路環境の整備のほか、被害軽減（自動）ブレーキなどを搭載した安全運転サポートカーの普及など自動車の安全性の向上も図られてきていますが、何よりもドライバーや歩行者、自転車利用者の方に「ルールを守ろう」という強い自覚を持つていただくことが基本です。

北海道では、道民一人一人が、交通安全を自らのことと考え、交通ルールを遵守し思いやりのある交通マナーを実践することにより交通事故を防止するため、引き続き「ストップ・ザ・交通事故」をめざせ 安全で安心な北海道」をスローガンに掲げ、「子供と高齢者の安全確保」「飲酒運転の根絶」「スピードダウン」などを重点に、関係機関や団体、地域の皆様方と力を合わせ交通事故の減少と飲酒運転の根絶に取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、奨学生の皆様が自らの夢や希望の実現に向けて、ますます学業に励まれ、充実した学生生活を送られますことを願っています。

市町村別交通事故死ゼロ状況
(令和元年8月31日現在)

順位	市町村名	開始日	継続日数
1	西興部村	平成7年1月31日	8,979
2	京極町	平成16年1月22日	5,701
3	島牧村	平成16年8月15日	5,495
4	古平町	平成18年1月10日	4,982
5	留寿都村	平成18年11月2日	4,686
6	北竜町	平成19年5月4日	4,503
7	興部町	平成19年8月17日	4,398
8	神恵内村	平成20年9月15日	4,003
9	上ノ国町	平成20年11月3日	3,954
10	泊村	平成20年12月1日	3,926

交通安全運動の重点

- 子供と高齢者の安全確保
- 居眠り運転の防止
- 飲酒運転の根絶
- 自転車の安全利用
- スピードダウン
- 安全意識の向上
- シートベルトの全席着用

過去における交通事故死ゼロ5,000日以上記録
(令和元年8月31日現在)

順位	市町村名	日数	期間
1	泊村	8,356	S53.8.17~H13.7.2
2	積丹町	6,869	H12.8.16~R1.6.6
3	陸別町	6,274	H9.7.15~H26.9.17
4	音威子府村	5,922	H15.4.27~R1.7.13
5	東藻琴村(当時)	5,799	H2.1.9~H17.11.24
6	置戸町	5,278	H14.10.3~H29.3.15
7	初山別村	5,016	H10.11.20~H24.8.13



「一步一步を大切に」

北海道大麻高等学校長 根上 和也

今年の三月二十一日、マリナーズのイチロー選手が現役引退を発表しました。二十八年にも及ぶプロ野球生活からの引退会見で「後悔などあるはずもない」と答えた場面はとても印象的であり、感動しました。

さて、皆さんは、友達や仲間から「前に進もうとする」と目の前に大きな壁がある。それを乗り越えるためにはどうしたらいいか。」と相談されたらどのように答えますか。その壁は見上げるほどに高く、そのままでは乗り越えることはできません。壁の向こうに行くための入り口はどこにもありません。

この質問にある人がこう答えました。まず、壁の周りをうろろうろしてみる。どこかに穴が空いていないか探してみる。脆くなっている場所がないか触ってみる。ここならいけそうだと思うところを掘ってみる。叩いてみる。蹴ってみる。崩してみる。

要するに、大きな壁に呆然と、ただ立ち尽くすのではなく、何らかのアクションを起こすということです。何もしなければ、いつまでたってもそれは高くそびえ立つ壁であり続けます。しかし、たとえ一日にたった一ミリしか崩せないとしても、粘り強く継続すれば、それを越えられる日は必ずやってくるはずですよ。

そして、それを独りではなく、目的を同じくする人たちと協働しておこなうことでその日はさらに早くなるはずですよ。

マザー・テレサは「暗いと不平を言うよりも、あなたが進んで明かりをつけなさい」という言葉を愛したといえます。物事に対して不平や不満を言う前に、自らが希望や目標となつて現状を変えていくこと、自分の置かれた環境に不平を言うのではなく、自分から進んで行動しその環境をより良いものへ転換させていくことの大切さを示す言葉です。

一度限りの大切な人生です。イチロー選手のように「後悔などあるはずがない」とまでは行かないかも知れませんが、「一生懸命頑張ってきた」と言えるような人生を歩みたいと思います。



未来へつなぐ交通安全

当麻町交通安全母の会連合会 会長 大谷 春美

篤志家からのメッセージ

当麻町交通安全母の会連合会は、「交通安全は家庭から」をスローガンに地域の方々への交通安全の呼びかけなどを通して、安心安全な社会が次の世代へ続くことを願って活動を行っております。

道内において交通事故による犠牲者数は年々減少しておりますが、一方でドライバーのマナーが問われるような報道をたびたび目にします。車を運転するうえで、他の運転者や歩行者への気づかいは最も大事なことです。

私たちは、春の新入学児への交通安全の呼びかけを始め、「無事故の日」には当麻町のキャクター「でんすけさん」などをモチーフとした手作りのマスコットを配る啓発活動を行ったり、冬の交通安全運動期間には一人暮らしの高齢者世帯を訪問する、などといった活動に毎年取り組んでおります。これらの活動は、時期も場所もさまざまですが、どれも住民一人ひとりと接して呼びかけると



マスコット作り



黄色い羽根募金

という点では同じです。そして、このような地道な活動こそが人々への強い意識づけとなり、同時に私たち自身も自らを律する大事な機会だと思っています。

毎年秋頃には、交通安全町民集会という警察の方に講話などをしていただくイベントがあり、そのときに来場される町民の方々から黄色い羽根募金の寄付をいただいております。

交通遺児の皆さん、自分の将来をより豊かで輝かしいものとするために、たくさん学び、学生生活を楽しんでください。そのために、私たちも微力ながら応援していきたいと思っています。

奨学生からの
メッセージ

将来の夢

庄司 愛葉



私の将来の目標は、助産師になることです。助産師になりたいと思うようになったきっかけは中学一年の時、年の離れた一番上の姉が出産し、末っ子だった私が中学生で叔母さんになり、初めて小さい姪っ子に会い、抱っこした時のドキドキや胸いっぱいになった感動が始まりでした。姉が入院中、私は何度も可愛い姪っ子に会いに行き、ずっと小さい手を握っていました。新生児室は生まれたばかりの赤ちゃん達が何人も横並びにスヤスヤ眠っていて、病院に行くたびに看護師さんや助産師さんにも話しかけられるようになりました。

ここは女性が活躍している職場で常に明るく、思いやりや優しい気持ちを持って患者さんや家族に接している姿に憧れ、興味を持ち助産師さんについて、いろいろ調べるようになりました。

助産師は出産の介助、出産にいたるまでの妊産婦への保健指導やアドバイス、産後の母子のケアを担っています。他にも育児指導や不妊治療を行っている夫婦の相談、思春期、更年期の性の健康問題にも関わる大変な仕事でしたが、出産という奇跡の瞬間に、一番近くで関わることのできる素晴らしい職業でもあると感じました。

そして、姉自身も看護師でありながら家庭を持ち、二人の子育てをしながら仕事をしている姿を見ていて、大変ではあるけれど一生働ける仕事であると感じています。

助産師になる為には、看護師免許を取得してから更に進学し努力しなければなりません。まず、今自分に出る事は高校での勉強をしっかりと、夢中になっているパレ一部での練習にも力を入れ、体力作りや仲間達との信頼関係を大切にし文武両道を目指し、高校生活を送る事だと思っています。

私の住む街は高校卒業後、進学や就職で街を出て行く人が大半なのですが、例え進学で離れても大好きなこの街に戻り、助産師として沢山の新しい命の誕生を手助け出来るように努力していこうと思います。



令和元年

秋の全国交通安全運動

[9月21日(土)~9月30日(月)]

～ 運動の重点 ～

- ①子供と高齢者の安全な通行の確保
- ②高齢運転者の交通事故防止
- ③夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- ④全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ⑤飲酒運転の根絶



平成30年 全国交通死亡事故状況

(平成30年1月1日~12月31日)

順位	都道府県名	死者数 (人)
1	愛知	189
2	千葉	186
3	埼玉	175
4	神奈川	162
5	兵庫	152
6	大阪	147
7	東京	143
8	北海道	141
9	福岡	136
10	茨城	122

交通遺児育英事業や交通遺児をなくすために交通安全運動全般に寄付して下さった個人・団体の皆様です。

受領月	寄付者名	種類	区分	寄付金額 (単位:円)
3月	全国共済農業協同組合連合会北海道本部	特定	現物 (交通安全広報車)	4,752,808 円
5月	植村泰也	特定	寄付	2,000 円
	八剣山パークゴルフ場	特定	募金	79,000 円
	一般社団法人空知建設業協会	特定	募金	286,000 円
6月	吉野三郎	特定	寄付	110,000 円
	浦幌町生活安全推進協議会	特定	募金(箱募金)	3,084 円
	植村泰也	特定	寄付	2,000 円
7月	鹿追交通少年団	特定	募金	33,992 円
	桜庭 和	特定	寄付	3,100 円
	小澤 ちひろ	特定	寄付	2,880 円
	全国共済農業協同組合連合会北海道本部	特定	寄付	683,802 円
	株式会社アベックス	特定	募金	8,972 円
8月	一般社団法人札幌地区トラック協会南空知支部	特定	募金	115,800 円
	羽幌自動車学校ヤングドライバーの会	特定	募金	20,264 円
	全日本グループ男塾	特定	募金	70,000 円
	ライダーズミーティング in 寿都実行委員会	特定	募金	60,000 円
	植村泰也	特定	寄付	2,000 円

(平成31年3月1日〜令和元年8月31日)
皆様からのご支援に心から感謝します
 順不同・敬称略

お知らせ



全国共済農業協同組合連合会 北海道本部



一般社団法人空知建設業協会



全日本グループ男塾



八剣山パークゴルフ場

◆奨学金の返還を完了した方々

(平成31年3月～令和元年8月までの間)

奨学金の返還を完了された方は、2名です。お一人は高等学校生・専修学校生（専門課程）の時に、もう一人の方は中学生・高等学校生の時に奨学金をご利用になり、この度返還が完了されました。長い間、大変ご苦労様でした。

返還された資金は、後輩奨学生の奨学金として役立てております。

これからも社会の一員として、健康で幸福な生活を送れますよう心からご祈念申し上げます。

たくさんの道民の方々が応援しています！

交通遺児奨学生募集

無利子貸付(3割給付つき)

対象者

交通事故が原因で保護者を亡くしたり、重度の後遺障害が残った保護者のお子さんで、他の機関・団体等から奨学金の貸付を受けていない生徒・学生

貸付金額

奨学金は、下表のとおりで無利子貸付

対象学生	普通奨学金(月額)	入学奨学金
中学生、中等教育学校生(前期課程)	10,000円から20,000円の選択制	無し
公立高等学校生、中等教育学校生(後期課程)、高等専門学校生	10,000円から30,000円の選択制	100,000円
専修学校生(高等課程)	10,000円から40,000円の選択制	150,000円
私立高等学校生	10,000円から40,000円の選択制	250,000円
専修学校生(専門課程)	10,000円から40,000円の選択制	250,000円

返還方法等

- 月返還額は、原則5,000円以上とする【特殊事情がある場合は協議する】
- 返還期間は、最長65歳に達する月までとする【最短10年】
- 貸付を受けた奨学金の70%返還時、残り30%を本委員会が給付し返還を完了する
- 奨学金返還に係る振込手数料については本委員会の負担とする

申し込み方法

在学する学校長を経由し、公益社団法人北海道交通安全推進委員会までお申し込み願います。なお、申し込み時必要な書類の様式等は、**本委員会ホームページ**【<http://www.slowly.or.jp>】をご参照下さい

申し込み期間

随時受付しております

～詳しくは本委員会までお問い合わせ下さい～

公益社団法人 北海道交通安全推進委員会

〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第2道通ビル6階

TEL 011-221-6666〈平日午前8時45分から午後5時30分まで〉

E-mail : safety@slowly.or.jp



発行／令和元年9月
編集／公益社団法人 北海道交通安全推進委員会
〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23
第二道通ビル6階
TEL:011-221-6666
FAX:011-221-7873
URL:<http://www.slowly.or.jp>
e-mail:safety-gakusei@slowly.or.jp
印刷:白馬堂印刷株式会社